

『望ましい草津市の幼保一体化（施設）のあり方』の議論の経過

◎草津市幼保一体化検討委員会中間とりまとめの課題

1. 子どもを中心とした質の高い幼児教育・保育の提供
2. 就学前施設間の在籍状況のアンバランス（保育所での待機児童と幼稚園の定員割れ）
3. 3歳児以上の未就園児に対する幼児教育の提供
4. 就労率の向上と多様な就労形態に対応した就学前施設のあり方（幼稚園での預かり保育等）
5. 特別支援教育への対応
6. 子育て支援（未就園児活動を含む。）や家庭支援機能のあり方
7. 保・幼・小の連携・交流
8. 幼保一体化ニーズ（就労の有無に関わらない受入れ等）と保護者の選択
9. 幼保一体化に伴う課題整理や広報周知の必要性

◎小津こども園（守山市）視察後の委員意見のまとめ

1. 子ども主体の保育・教育（環境面や先生との関わりなど）
2. 保育者の資質能力（保育者同士の連携、研修機会の保障など）
3. 保護者と職員との連携や保護者同士の学び合い
4. 小学校との連携

◎幼保一体化シンポジウムにおける山縣教授の基調講演

1. 子ども・子育て会議を事業者、主要制度利用者中心にせず、サービスがあまり届いていない認可外利用者や在宅子育て層への支援を考えること
2. 10年後の子どもの状況、市町村の財政状況を視野に入れた計画とすること
3. 新しい制度で不利益となる層への配慮をできるだけ行うこと
4. 地域全体で子育てを考えること、親子の育つ力の形成という目標を見失わないこと

◎幼保一体化シンポジウムにおけるパネリストの意見

- [福永]・事業者が、「すべての子どもを対象に」との視点に立ち切れているか
・利用者が、保育所や幼稚園を利用できていない人に思いを馳せ切れているか
- [濱名/ 児島]・保育所・幼稚園が、地域の子育て支援だけではなく、日常利用している子どもの教育・保育を地域との関係で展開する必要がある
- [斉藤]・不安解消への十分な情報提供とプラスを実感できる事実の提供